

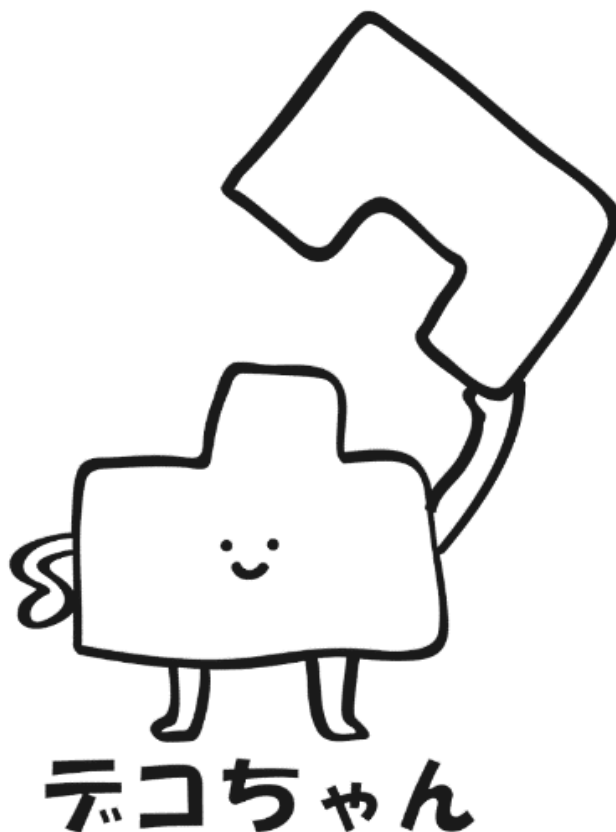


環境経営レポート

株式会社Sakae Plus

2023 年度

(対象期間: 2023 年1月1日～ 2023 年12月31日)



株式会社 **Sakae Plus**

発行日: 2024年4月1日
更新日: 2024年9月4日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	11
緊急事態対応訓練	11
代表者による全体の評価と見直し・指示	12
これまでの環境活動の紹介	12



ごあいさつ

2021年にイギリスでC O P 26が開催され、全世界的に地球温暖化をはじめさまざまな環境問題がクローズアップされました。パリ協定や京都議定書を上回る議案が決議されました。産業の発展に伴い環境破壊が起こり、このままでは2030年のS D G sの達成が危ぶまれています。弊社も環境問題には非常に注力していきまして、決して他人事とは考えずに積極的にかかわることとして、経営理念や行動指針を通じて環境経営に邁進していこうと思います。

環 境 経 営 方 針

環境経営理念

本業である特殊印刷用金属版の生産を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

お客様に喜んでいただける商品を効率よく、無駄なく、タイムリーにお客様に提供することが当社の一番の環境対策と考えて、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

環境保全への行動指針

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 原材料や廃棄物(端材、廃油、汚泥)などを削減し、廃棄物の発生抑制につとめます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 化学薬品や溶剤など適正管理に努めます。
6. 環境に配慮した製品をお客様にお届けします。
7. 緊急災害時の対応を推進強化します。
8. 地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。



制定日：2021年12月1日

改定日：

代表取締役 舩重 聖長

組 織 の 概 要

更新日：2024年3月1日

(1) 名称及び代表者名

株式会社Sakae Plus
代表取締役 舩重 聖長

(2) 所在地

本 社 大阪府大阪市城東区森之宮2丁目2番14号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

代表者 代表取締役 舩重 聖長 TEL：06-6968-2271
責任者 代表取締役 舩重 聖長 TEL：同上

環境管理事務局 管理部 池下 TEL：同上
各部門担当者 管理部長 松井 TEL：同上
営業部長 中井 TEL：同上
製造部長 池上 TEL：同上
製造部DTP課長 山下 TEL：同上

(4) 事業内容

特殊印刷用金属版の製造

(5) 事業の規模

資本金 2,500 万円
売上高 44,159 万円

	本 社	敷地面積
従業員 名	31 名	
延べ床面積 m ²	592.97 m ²	375.11 m ²

保有設備

	台数	貯蔵量
塩化第二鉄液貯槽	1基	2.5m ³
塩化第二鉄廃液貯槽	1基	2.5m ³
硝酸貯槽	1基	4.0m ³
原水貯槽	1基	2.0m ³
苛性貯槽	1基	2.5m ³

	台数	放流量
廃液処理設備	1式	8.0m ³ /日

車両台数

車種	台数	敷地面積
営業車	5台	50m ²

(6) 事業年度

1 月 1 日 ～ 12 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社Sakae Plus
対象事業所：本 社
活動：特殊印刷用金属版の製造

□事業や製品(商品)の紹介

主な事業の紹介

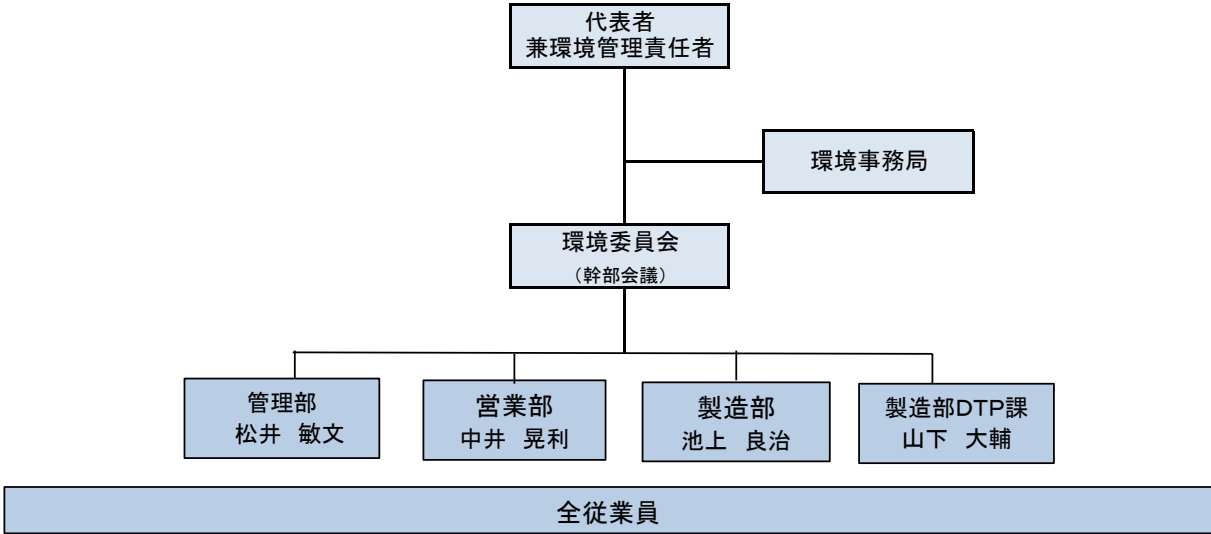
株式会社Sakae Plusは箔押(箔押)・浮出(エンボス)・シール印刷・PAD印刷などの特殊印刷用の版を製造している会社です。

例えばパッケージや名刺に会社のマークや文字などの箔押をしたり凹凸をつけたり、化粧品ボトルやカメラ、ボールペンなどの曲面への印刷を得意とする「はんこ」を製造しています。

当社では特に銅のエッチング(腐食)加工に定評があり、技術力の高さから取引先の希望にも柔軟に対応しています。為替変動による材料費の高騰やインフラ停止によるカントリーリスクがありますが、同業他社が減少していく中でパッケージや官公庁の自治体の書類刷新などデザイン変更による印刷需要の増加が続くことから、その期待に応えるべく、当社の製造力の高い版を提供し続けます。

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日：2024年2月20日



役割	担当者	役割・責任・権限
代表者	舩重 聖長 (代表取締役)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	舩重 聖長 (代表取締役)	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	池下 怜志	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
環境委員会	幹部会議にて	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	松井 敏文 (管理部長) 中井 晃利 (営業部長) 池上 良治 (営業部長) 山下 大輔 (製造部DTP課長)	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	58,140	56,944	57,476
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	k g	44,400	43,200	37,750
産業廃棄物排出量	トン	20,695	20,669	22,292
水使用量	m ³	1,311	1,333	1,278
※電力の二酸化炭素排出係数（調整後） 関西電力㈱ 2021年度実績		0.311	0.311	0.311

kg-CO₂/kWh

環境経営目標及びその実績

□環境経営目標及びその実績

年 度 項 目		基準値	2023年		評 価	2024年	2025年
		2021年		通期			
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO2	40,319	39,512	44,844	×	38,706	38,303
	基準年度比	2021年	98%	111%		96%	95%
	原単位	kWh/千円	0.326	0.320	0.326	×	0.313
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO2	1,998	1,938	1,724	○	1,918	1,898
	基準年度比	2021年	97%	86%		96%	95%
	原単位	m ³ /千円	0.002	0.002	0.002	○	0.002
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	15,823	15,507	10,908	○	15,507	15,348
	基準年度比	2021年	98%	69%		98%	97%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	58,140	56,957	57,476	×	56,131	55,549
一般廃棄物の削減	kg	44,400	43,068	37,750	○	42,624	42,180
	基準年度比	2021年	97%	85%		96%	95%
産業廃棄物の削減	kg	20,695	18,626	22,292	×	18,212	18,005
	基準年度比	2021年	90%	108%		0.88	0.87
水道水の削減	m ³	1,311	1,272	1,278	×	1,259	1,245
	基準年度比	2021年	97%	97%		96%	95%
使用化学物質の適正管理	kg	47,450	46,501	47,970	×	45,552	45,078
	基準年度比	2022年	98%	101%		96%	95%

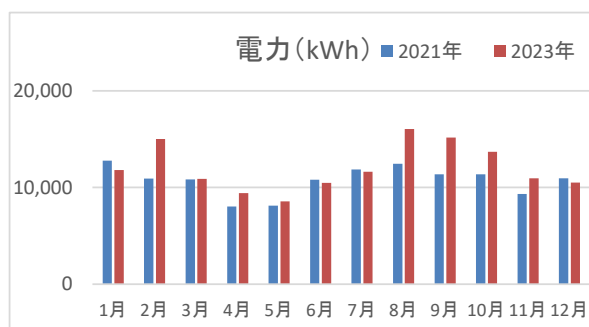
※評価は目標に対する実績

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【取組みの評価】生産効率の改善を図るため週次で品質会議を実施。銅版、マグネシウム版などの材料や腐食液等の副資材の効率利用による作業時間短縮に取り組んできた。しかし夏場(第3Q)の平均気温上昇と下半期の受注増加により、基準年度比、二酸化炭素排出量増加となったもの。今後は受注から出荷までの全工程で、関係部署が連携して取り組める対策を実施していくもの。 【次年度の取組み】全社員の意識改革として、季節毎に具体策を実施していく。1～3月の間はデマンドを意識しエアコン温度や風量を細かく設定することで電気使用量削減に着手する。そして、スマートメーター導入も施策の経過を見ながら2024年中に検討していく。
原単位目標	×	
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	△	
・必要な区域や時間を限定した空調の使用	×	
・不要照明の消灯	△	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	○	
・生産方法の改善による時間短縮	△	

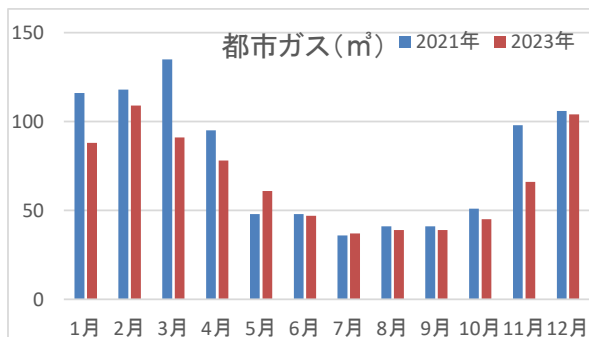


取組紹介欄

2022年は基準年度比べ受注が増加したことや、業務効率化も想定した以上に進まなかったことから、全体としての進捗は図れなかった。
全社員の節電への意識改革と、業務効率化として新たに各部門間及び部門内の業務配分の見直しにも着手し

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	12,785	10,910	10,830	8,038	8,113	10,815	11,855	12,454	11,353	11,353	9,324	10,966
2023年	11,817	15,031	10,882	9,416	8,577	10,470	11,627	16,052	15,162	13,693	10,947	10,519

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【取組みの評価】年間を通じて品質会議による生産時間の短縮化が進み、使用量の削減に繋がった。今期受注が増加したにもかかわらず、二酸化炭素排出量が基準年度より13.8%の削減となったのはその証左。 【次年度の取組み】引き続き作業効率の改善を意識し、必要に応じた対策を実施していく。
原単位目標	○	
・生産方法見直しによる使用時間の短縮	○	
・都市ガス等環境負荷の少ないものを使用	○	

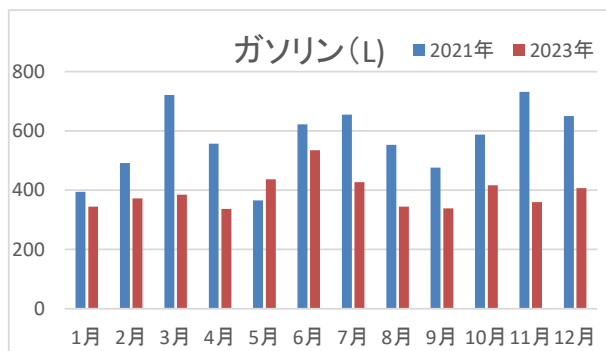


取組紹介欄

2022年は受注増加にもかかわらず、生産工程の効率化により、年間を通じて二酸化炭素排出量を目標以下に抑えることができた。
引き続き、生産時間、使用時間の短縮について使用量を意識した改善を進めるとともに、バーニング不要の加

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	116	118	135	95	48	48	36	41	41	51	98	106
2023年	88	109	91	78	61	47	37	39	39	45	66	104

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【取組みの評価】引き続きアイドリングストップと効率的な配送ルートを意識。1月と8月にハイブリッド車へ変更したことにより全台ハイブリッド車となったことで、ガソリンの使用が基準年度より大幅に改善され、二酸化炭素排出量は31%の削減となった。年間目標に対しても29.7%の削減となった。 【次年度の取組み】ハイブリッド車への更新は今期で完了。アイドリングストップと配送ルートの見直しを継続するとともに、営業エリアの見直しを実施し、更なる効率化を図る。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで運行計画の作成	○	
・営業エリアの見直し	○	
・エコドライブの励行	○	

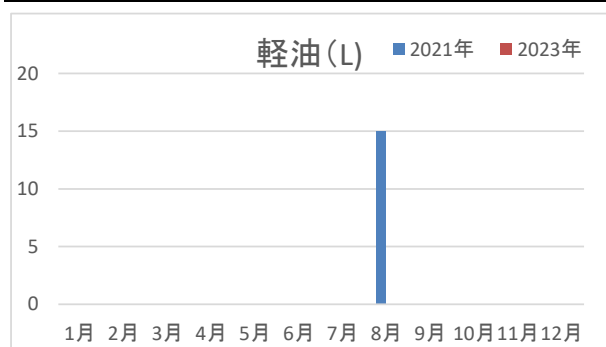


取組紹介欄

2022年については価格交渉により県外への移動が増え、目標は未達となったが、今期は1月に1台、8月に1台ハイブリッド車に更新し、配送ルートの効率化等、営業体制の見直しも行う。中期的な課題として電気自動車の採用を視野に入れる。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	394	491	721	557	366	622	655	553	476	587	732	650
2023年	344	373	385	336	437	535	427	344	339	416	360	407



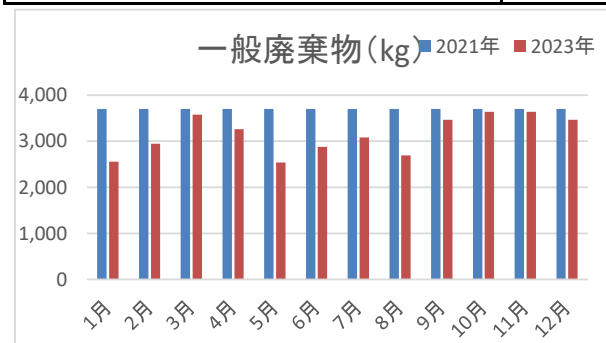
取組紹介欄

2020年度の9月より、ディーゼル車の使用をやめており、自社の営業車で軽油を使用することはありません。今後も軽油は原則使用しません。



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0
2023年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【取組みの評価】年間を通じて作業指示書作成時の必要最低限の出力や電子請求書等ペーパーレス化を図ったところ、繁忙期に廃棄量未達成の月が出たものの最終15.0%の削減となった。 【次年度の取組み】受注量増加に伴う廃棄量に注意しながら、DXを利用した更なるペーパーレス化を進めていく。
・ 分別の徹底	○	
・ 指示書作成時の不要な印刷物の削減	△	
・ 梱包材の再利用	○	
・ 作業ミスによる廃棄量の削減	△	



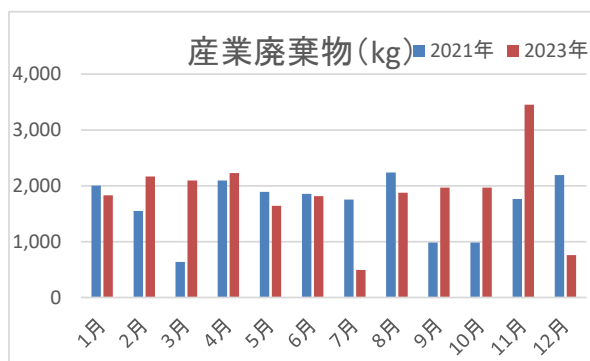
取組紹介欄

一般廃棄物のなかで「指示書作成時に発生する不要な印刷物の削減」を課題とし、FAXの紙出力削減等に取り組む。
廃棄物発生リスクのある請求書についても電子請求書への切替えを進めていく。
3月に複合機の入替えを行い、複合機と連動したDX



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700	3,700
2023年	2,560	2,945	3,580	3,260	2,540	2,880	3,080	2,695	3,465	3,640	3,640	3,465

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【取組みの評価】3S活動等の徹底により、適正な廃棄処分はできている。今後は受注から出荷までの全工程で、関係部署が連携して取り組める対策を実施していくもの。 【次年度の取組み】受注増加に伴う廃棄量削減のための生産方法の改善を課題として取り組む。また廃材は廃棄ではなく再生利用の回収の為本項から外します。
・ 作業ミスによる廃棄量の削減	△	
・ 廃棄物の分別を徹底し、可能な場合は売却	○	
・ 3S（整理・整頓・清掃）活動の実施	○	
・ 適切なりサイクル業者の特定	○	

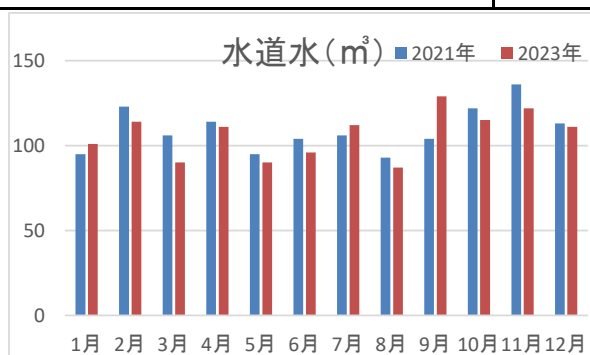


取組紹介欄

2022年は素材別ボックスの設定により、適正な廃棄処分はできていた。引き続き作業ミスによる廃棄量削減を継続し、作業方法の改善を行う。また適切なりサイクル業者については、業者数の減少もあり、慎重に特定を

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	2,002	1,550	635	2,098	1,890	1,856	1,752	2,240	985	985	1,765	2,193
2023年	1,831	2,167	2,096	2,228	1,641	1,813	494	1,875	1,968	1,970	3,451	758

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【取組みの評価】使用量について、基準年度から2.5%削減できたが目標は未達となった。節水シールや声掛けの効果は出てきていると評価できる。 【次年度の取組み】節水意識を徹底するだけでなく、製造工程改善による削減も検討していく。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・手洗い時、洗い物等節水の励行	△	
・無水トイレ(男子トイレ)の使用	○	
・クーリングタワーによる水量の適正管理	×	



取組紹介欄

節水シールの意識付けや朝礼での徹底だけでは目標の達成は困難である。製造工程における水の使用量が調整できないかを検討する。
節水意識が一過性とならないように社内でも徹底するとともに、クーリングタワーや中水利用設備の配管の保温を一定にするための舗装工事を3月に行う。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2021年	95	123	106	114	95	104	106	93	104	122	136	113
2023年	101	114	90	111	90	96	112	87	129	115	122	111

使用化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	事業活動において化学物質の使用は回避できず、本項目については「適正管理」を目的とする。 【取組みの評価】2022年の塩化第二鉄液の年間使用量は47,450kg。対して2023年の年間使用量は47,970kgとなった。目標達成は厳しいが、受注量増加にもかかわらず、前期の使用量と同程度で推移できたため、適正に管理されていると評価できる。 【次年度の取組み】2022年、2023年を通じ塩化第二鉄液の使用量は47,000～48,000kgと考えられるため、受注量に応じた適正管理を継続していく。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・容器の蓋の徹底	○	
・作業ミスによる使用量増加の抑制	○	

取組紹介欄

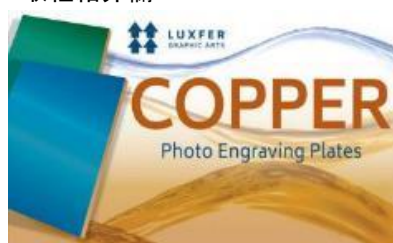


2022年は有機溶剤の「適正管理」のための実態把握に取り組んだ。
有害性物質の表示や保管状況(容器の蓋の徹底)に問題はなし。作業ミスは例年と同程度にとどまった。
代替物質の検討については、試験を重ねるも厳しい状況。引き続き、実態把握を進め、2023年度以降
の適正管理の基準値を掌握する。

環境に配慮した製品・サービスへの取り組み	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・持続可能な原材料の採用	○	【取組みの評価】従来の海外産銅に加えて、国内産銅の製品提供を可能にした。その結果、輸送にかかる環境問題改善に寄与するもの。また、第3Qより3DCGサービスの事業化に着手。業界の慣例では現物主義であったが、3DCGが主流となれば業界をあげて環境問題改善に繋がるもの。 【次年度の取組み】マグネシウムをアメリカ産と中国産の2社購買にし安定した仕入をするため板材や副資材のテストに取り組む。
・廃棄率削減	△	
・製品・情報の公開	○	



取組紹介欄



・ラクスファアの銅



・三井金属の銅

輸入材であるラクスファアの銅板から
国産である三井金属の銅にシフトすることで、価格面での負担が削減されるだけでなく、運搬などで発生する
二酸化炭素排出量の削減に貢献できると考えます。

課題を解決しチャンスを活かす取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・技術の継承	○	【取組みの評価】マーケット拡大が限定的な特殊印刷の分野で安定的に製品供給するために、製造部門ではマルチスキル化を進め、営業部門では新たに2名採用するなど人材面での強化を図り、財務面でも資金調達手法を変更するなど企業価値向上を図っている。 【次年度の取組み】マルチスキルローテーションによる製造部のスキルアップ継続。営業部の増員による育成と組織編成の構築。業務効率化による残業時間の削減。
・企業価値向上による顧客獲得	△	
・事業拡大のための資金調達、人材確保	○	
・新製品・商品開発	○	
・働き方改革	△	

取組紹介欄



・経営力向上計画



・健康経営優良法人2023



グリーン購入への取組

取組紹介欄

文房具をはじめとしたオフィス用品のグリーン購入法に沿った商品の購入を意識し、家電製品や営業車の
買い替えの際はグリーン購入法の対象となる物を意識して選定する。



環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物の保管・排出 産業廃棄物の保管・排出
労働安全衛生法	リスクアセスメント義務、SDSの具備、開示、化学物質管理者の選任、保護具着用管理責任者の選任
消防法（危険物）	危険物の保管（R-360危険物保管ロッカー）
自動車リサイクル法	営業車廃自動車手続
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫等
毒物及び劇物取締法	硝酸貯槽5m ³
フロン排出抑制法	空冷式産業用地リングユニット：WYN48-1515-C 1台 業務用エアコン：14台
下水道法	パウダーレスエッチングマシン、 KM-001、YCE-70F-PS、M2号、YCE-85CU、KC-001、C2号、C3号、KR-004、ロール1号、パット1号、ステンレス1号、フィルムセッター、LD-M1060
水質汚濁防止法	自動式フィルム現像洗浄施設LD-M1060 酸又はアルカリによる表面処理施設 SP-5000L、KM-001、YCE-70F-PS、M2号

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

近隣からの苦情について2023年1月～2023年12月までの間、苦情等はありませんでした。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 地震の発生	
■実施日： 2023/1/21	■実施場所 Sakae Plus駐車場内
■参加者： 池下 怜志 他29名	
■実施内容： ☐ 通報訓練 ☐ 消火訓練 ☒ 避難訓練 震度6弱の地震を想定した避難訓練。社員全員が地震停止後駐車場に避難し、避難にかかった時間を測定する。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☐ あり ☒ なし
従業員全員が地震時の対応を実践する機会ができ、災害時の組織体制や手引きの確認にもなった。	
■実施状況の様子	
	

代表者による全体の評価と見直し・指示



実施日：2024年3月1日

2023年は世界各地で異常高温が発生したほか、熱波や干ばつ、大規模な洪水、山火事などが多発。その影響を受けて農作物の不作が深刻化し、食料価格が高騰したことも記憶に新しいでしょう。物価上昇については、弊社を取り巻く環境においても銅やマグネシウムなど原材料の価格高騰、また燃料高騰による光熱費の高騰が事業活動に大きく影響を与える要因になっております。弊社としてもこの状況を打破すべく、従来の海外産の銅だけに頼るのではなく、国内手配可能な無酸素銅を採用しました。そのため、従来の銅版と同程度の価格で提供することができました。マグネシウムについてもアメリカ産から中国産へのシフトを検討し板材から副資材までテストを繰り返しながら新たなマグネシウム材の採用を模索しております。

また2023年10月からのインボイス制度の開始や2024年1月からの電子帳簿保存法の改正による紙の取引資料の取扱い方等、企業を取り巻く環境が目まぐるしく変化しております。更には運送業界の2024年問題により納期の見直しなど環境問題に取り組む上で非常に厳しい状況にあります。社会では「脱プラスチック」や「カーボンニュートラル」に向けた活動が進む中、弊社でも二酸化炭素削減をはじめとした環境活動に取り組むとともに、新たな法規制などに柔軟に対応していくことで、環境と企業の成長とそれぞれが調和のとれた会社づくりを図ってまいります。

環境問題に取り組む上で効率的な事業活動を継続するためには、社員一人ひとりが「エコアクション21」の活動を意識しなければなりません。2023年はすべての目標は達成できませんでしたが、ガスと自動車燃料の二酸化炭素排出量削減及び一般廃棄物の削減については達成でき、新たな課題が確認できた年となりました。

2024年も世界的な物価高の継続が見込まれるなか、エコアクション21の活動を通して、社員、そして、企業の成長を目指します。

代表者
代表取締役 舩重 聖長

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☐ 変更なし	☒ 変更あり 実績を踏まえて見直すこと
実施体制他	☒ 変更なし	☐ 変更あり

これまでの環境活動の紹介（1）

企業の立地を考え、東は生駒山、西は大阪湾の方向に風が吹く地の利を考慮して南北に立つ大きなマンションに対して、排ガスによる公害を出さない配慮を行っています。東側は平野川、西側は空き地に排ガスの匂いを抑えるためにスクラバー（洗浄集塵装置）を設置しました。具体的には下から含塵ガスを送り込み、上から洗浄液として塩化第二鉄液を溶媒として噴霧下降させて液滴、液幕、気泡によって含塵ガスを洗浄し粒子の付着、凝集を図り粒子分離捕集する装置を稼働させ、匂いを閉じ込める工夫をしています。

金属を腐食（エッチング）加工するにあたって熱が発生します。上水道で冷却しているが、クーリングタワーにより水の循環を図っています。



これまでの環境活動の紹介（2）

当社ではペットボトルから出るエコキャップの回収を継続的に実施しています。前回エコキャップ運動に協力した団体が活動を終了したため、現在回収先を選定中ですが、エコキャップをそのまま処分せず、回収に協力することでCO₂の発生を抑えるだけでなく、医療支援や障害者支援、子どもたちへの環境教育等の社会貢献にもなるため、当社の環境活動の一つとなっています。写真は2023年の間に回収したエコキャップになります。ただ捨てるのではなく、小さなことの積み重ねが様々な活動に貢献できるという事を意識しながら今後もエコキャップの回収に努め、環境活動と社会貢献の両方を促進してまいります。



□編集後記

2023年についてはエコアクション21の取組みを通じて、特に電力による二酸化炭素排出量削減、産業廃棄物の削減に課題があることに気づかされた1年となりました。製造業では特に厳しい課題となりますが、行動を起こさなければ何も変わりません。急激な職場環境の変化にはならないよう留意しつつ、全社を挙げて取り組まなければ目標達成は実現できません。些細な事でも大切だという事を肝に銘じ、2024年も引き続きエコアクション21の活動を継続します。

2023年にはインボイスの導入や改正電子帳簿保存法の期限到来、更には運送業界の2024年問題により納期の見直しなど環境問題に取り組む上で非常に厳しい状況にあります。

しかし、現状を悲観的にとらえるのではなく、CO₂排出量を削減する環境活動とコストダウンを意識した事業活動を共存しながら、この先何十年、何百年先も環境活動を継続できるようにSakae Plusは一つ一つの活動に責任を持って行動してまいります。